

おもかげのうつろひ 佐藤 壮馬 Transient Traces Soma Sato

「shiseido art egg」は、「新しい美の発見と創造」という考えのもと、オープン以来100年以上にわたり活動を続けてきた資生堂ギャラリーの門戸を新進アーティストに開く公募制のプログラムです。16回目となる今回は、全国各地より260件の応募をいただきました。今回も資生堂ギャラリーの空間を活かした独創的な展示プランが多く提案されましたが、選考の結果、独自の視点から今日の世界の新しい価値観や美意識を表現する、岡 ともみ(おかとともみ)、YU SORA(ゆ そら)、佐藤 壮馬(さとう そうま)が入選し、それぞれの個展を1月～5月にかけて開催します。

第3期に開催する佐藤壮馬は、時空間における身体と心の問題を主題に、表象の背景にある記憶や慣習について考察しています。複製技術を用いてアーカイブされたものを制作に取り入れるなど、モノや空間が持つ時間の流れや関係性を表現することを試みてきました。本展では、2020年の大雨により倒れた岐阜県の神明神社の大杉を3Dスキャンで複製し構成する新作を中心に、科学と信仰のあいだの認識のズレや交わる場所と私たちの心の在り方を探ります。

写真や映像、3Dスキャンなどによってアーカイブされるものの背景にある、目に見えない文化や人々の記憶、慣習などに興味がある。

2020年7月11日、岐阜県瑞浪市大湫町・神明神社のご神木が大雨の夜に倒木した。日本橋(東京)と三条大橋(京都)を結ぶ中山道47番目の宿場としてのおもかげを残す大湫のシンボルで在り続けた大杉は、民家を避け、1人のけが人を出すこともなく横たえた。倒木の数か月後から度々現地を訪れ、2020年12月17日に3Dスキャンと写真による記録をとった。大展示室の空間は、その時に撮影した写真と3Dスキャナーのデータを元に制作した立体作品により構成している。

2022年10月、再建された神社を見に大湫を再訪した際、大湫の人から大杉の残片が残されていることを知らされる。それらの一部を許可を得て持ち帰った。小展示室の立体作品は、それらを用いて制作した。倒木の残片からは、生命の流動の痕跡をみることができる。残片を持ち帰る際、樹木医の方が、木が傷口などを覆うように成長する「カルス」という作用について教えてくれた。その作用の痕跡に自然の力への畏怖と、生と死のダイナミズムを感じさせられた。

風土に根ざした信仰対象が記録され、複製されることでうつろうそのおもかげ。残されたデータの空隙に、人々の記憶や慣習といった目に見えないものが流れ込み、その対象と我々との間に新たな関係性が結ばれる。ご神木が倒れる前と倒れた後を追うことで見えてくる循環と再生、その背後にある人々の営みを感じてもらいたい。

佐藤 壮馬

佐藤 壮馬

1985年 北海道生まれ。北海道在住

2011-2012年 ロンドン大学 UCL 人文科学ファンデーションコース 近代西洋文学及び芸術史・人文地理学・批判理論 専攻

2012-2015年 ロンドン大学 UCL パートレット校建築学部建築学科 (中途退学)

2020年 第23回文化庁メディア芸術祭 アート部門審査委員会推薦作品

2022年 KYOTO STEAM 2022 (京都市京セラ美術館、京都)参加

支援: 令和2年度メディア芸術クリエイター育成支援事業

協力: CG-ARTS, 大湫町コミュニティー推進協議会

助成: 令和4年度 札幌市文化芸術創造活動支援事業

Sapporo Art Index

技術協力: KYOTO'S 3D STUDIO

制作サポート: 棚橋哲夫, 田村啓, 星野卓也, 神田愛実, 野澤直之

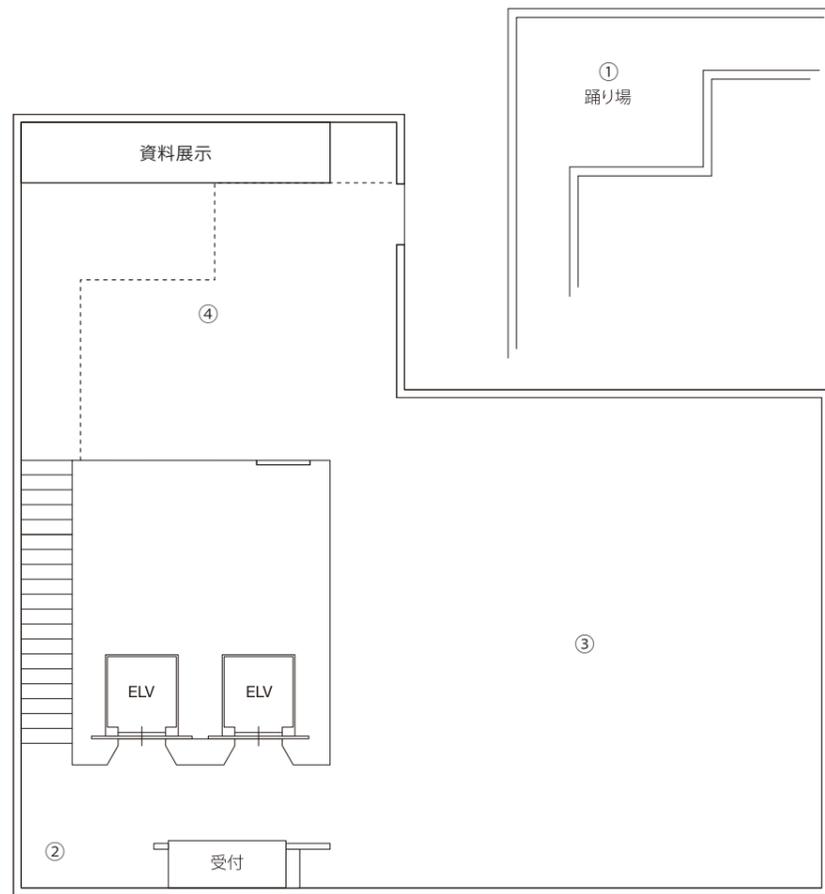
SHISEIDOGALLERY

会期: 2023年4月18日(火) - 5月21日(日)

平日: 11:00-19:00 日・祝: 11:00-18:00

毎週月曜日(月曜日が祝日にあたる場合も休廊)

主催: 株式会社 資生堂



①
《Of Flowers (Rose)》 2022
インクジェット印刷、ポリエステルフィルム、樹脂、音

②
《Of Flowers (Tsubaki)》 2022
インクジェット印刷、ポリエステルフィルム、樹脂、音

この作品は、花の点群イメージ、数値データ、立体オブジェ、花について語られた言葉により構成している。

「花」は見られる対象であると同時に、花言葉のように、目に見えない文化的背景に根ざした象徴的な意味を持つ。「花」をモチーフに、光線を対象物に当てて反射させた点の集合から形を記録する3Dスキャナー(LiDAR*)と、私たちの触覚による認識との相似からこの作品の着想を得た。

目に見えない「花」の存在を体感するために、全盲の方と一緒に時間を過ごした。表や裏といった考え方、言葉であらわされる色の印象、音でとらえられる空間のひろがり、触れることによる対象との隔たりの喪失、過去の経験や記憶など、空間における身体の使い方の違いを学び、作品を発展させた。

*LiDARは「Light Detection And Ranging」の略称。対象にレーザー光を照射し、その反射の情報をもとに距離や形などを計測する技術。スマートフォンの顔認証や、ロボット、自動運転車などの空間認識センサーとして社会に浸透し始めている。

③
《おもかげのうつろひ》 2023
3D断片: 樹脂、アクリル、他
写真#1-7: インクジェット印刷
※左ページのアーティストによるステートメントをご参照ください。

④
《Physis》 2023
#1-7
木(杉)、樹脂

聖遺物や仏舎利のように、様々な宗教で見受けられる遺骨などを保管する様式から着想し、持ち帰った大杉を封入した。Physisは、「Nature(自然)」と訳されるギリシャ語で、「Logos(言葉、論理)」や「Nomos(慣習、掟)」など人間的な営みの反対にあるものとされていた。同語から派生した「Physics(物理)」が17世紀に台頭して以降、自然の流れや変容を体感することから離れ、実証的に説明する科学的な態度が色濃くなった。